



★幸せな贈り物

## 天国はない ……スティーヴン・ホーキング 天国に 彼は いない ……神様

### 人生問題、死ねば終わりますか？

ある大学のキャンパスの壁、キリスト教に反対する学生が「神様は死んだ-ニーチェ」と書いておきました。ところで、数日後、その下に「ニーチェは死んだ-神様」というメモが残されていました。無神論哲学者の代表的な人物であるフリードリヒ・ニーチェ（1844～1900）は「神は死んだ…私は運命だ」ということばを残した後、46歳で精神病が発病して10年間、苦しみの中で過ごして1900年8月25日、明るい真昼に「私に光をくれ、なぜこのように暗いのか」と大声で叫びながら、みじめな最後を迎えました。はたして、死ねば人生問題もみな終わるのでしょうか。

イギリスの天体物理学者スティーヴン・ホーキング博士（69歳）が、最近、イギリスの日刊紙ガーディアンとのインタビューで「天国や死後の世界が私たちを待っているという信仰は、死を恐れる人々が作り出したおとぎ話（fairy story）に過ぎない」と言いながら、「死ぬ前に最後に脳がちらつく瞬間以後には、どんなものもない」と話して波紋を起しました。彼は「若い時期から身体的な苦痛をあげてきたので、死はそれほど恐ろしくない」と話して、付属品に故障が起きれば作動が止まるコンピュータに人間の脳をたとえながら「故障したコンピュータに天国や死後の世界はありえない」と言いました。

ホーキング博士は、昨年9月アメリカ物理学者レナード・ムロディナウと共に書いた本〈偉大な設計（Grand Design）〉で「現代物理学は宇宙創造で神のための席を残さなかった」と強調しました。宇宙は重力のような物理学法則により自然発生的に生じたものであるから、創造者の役割は必要ないという主張です。全世界で900万部以上売れたベストセラー〈ホーキング、宇宙を語る〉を出版した1988年までは、ホーキング博士は神の存在を否定していませんでした。〈ホーキング、宇宙を語る〉で、彼は「人類が完ぺきな理論を発見したら、それは人間の理性の究極的勝利になる」と言いながら「そのとき、私たちは神の心を知るようになること」と書きました。それから後、神の存在に対してあいまいな意見を見せた彼は〈偉大な設計〉出版を準備した2009年から創造者の存在を否定し始めました。ガーディアンとのインタビューでホーキング博士は「人間の存在理由と目的」に対する考えも見せたのですが、彼は「人類と宇宙は無から有が生じたことだから、私たちの人生の最も偉大な価値は、自ら探そうと努力しなければならない」と話しました。また「科学は、数え切れないほどの観察から発見した現象と関係を最もやさしく説明できて美しい」とつけ加えました。

このような、でたらめなことばを知って、あちこちの国のクリスチャン科学者と教会の内外でホーキングの無礼な言動をいちいち反論する声が続いています。イ・ウンサン韓国創造科学会会長は「神様を否定することは、コンピュータが偶然に作られたと主張するのと何が違うのか」として「1,000億個以上の神経細胞組織で作られた人間の脳が、自然に生じたということは牛が笑うこと」と指摘しました。彼はまた「酸素と窒素が目に見えないけれど厳格に存在している」として「人間の制限された知識で幽玄な創造秩序を説明しようとするのは、まことに愚かな発想だというほかに説明する方法がない」と断言しました。

### 人生問題、信じれば終わります!

それでは、聖書は何と語っているのでしょうか。詩篇14篇1節を見れば「愚か者は心の中で、『神はいない』と言っている。彼らは腐っており、忌まわしい事を行なっている。善を行なう者はいない。」と言われています。そして、人間の救い主として来られたイエス様の公生涯の働きの開始を知らせる最初のメッセージが、まさに「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」(マタイの福音書4:17)でした。

死と来世のはじまりと終わりはこのようです。本来、人は神様のかたちとして創造されたので、神様と交わりながら生きていました。しかし、エデンの園で神様を離れる罪を犯したあと、神様からの栄誉を受けることができなくなったのですが、このような悲劇はサタンという目に見えない霊的存在の狡猾なうそから始まりました。神様から永遠に生きる保証としてもらった善悪の知識の木の約束をサタンはあまりにも巧妙にだましました。「そこで、蛇は女に言った。『あなたがたは決して死にません。あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。』」(創世記3:4~5) この誘惑に負けて神様を離れてしまった人間は、死を恐れる中で、一生サタンの奴隷のようになりながら生きるようになりました。目に見えずに繰り返す、とうてい理解できない霊的問題と呪い、災い、精神問題、肉体の問題、家庭問題、子どもの問題、来世問題の罫に引っかかって、不幸な人生の中に陥って

しまったのです。死後にかくされた永遠な苦しみの罫。サタンは今日も来世に対する否定と輪廻説、転生説など、あらゆる方法で死後の世界をだましているのですが、聖書は死んでも終わらない来世の審判を確かに語っています。「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように」(ヘブル人への手紙9:27) この問題を人間自らは解決できないという事実を知っておられる神様が、人間の問題を解決してくださるために、はじめから福音(キリスト)をくださると約束されました。イエス様がまさに人間の根本問題である「罪と死」を解決するために人間となってこの世に来られたキリストであると、聖書はあかししています。イエス様は、私たちのすべての罪と呪いをご自分で担って、十字架で死んでくださいました。そして死の権威を打ち破って3日後に復活されました。このように、不幸の根本原因を取り除いて、サタン(悪魔)のしわざを打ちこわして、永遠な天国を約束してくださったのです。それで、だれでもイエスがキリストであると信じて受け入れる人は、神様の子どもになります。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネの福音書3:16)「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。」(ヨハネの福音書5:24)「そして、もしキリストがよみがえらなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の中にいるのです。そうだったら、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったのです。もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。……すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。」(コリント人への手紙第一15:17~22) **すべての人生の問題、死ねば終わるのでなく、信じれば永遠な天国の人生がはじまります!**



## 創世記3章、人間の問題のはじまりと背後

なぜ人間は知らない間に、運命と運勢に縛られて生きていき、理由もなく不幸に苦しめられなければならないのでしょうか。いったいその背後はあるのでしょうか。聖書は、全人類を不幸に陥るようさせた創世記3章の事件の開始とその背後を一つ一つ明らかにしています。地上最大の人生の詐欺事件である創世記3章の事件の全貌は、このようです。すべての万物を創造して最後にエデンの園を準備された神様は、アダムとエバを創造して、そこで神様とともにいて、与えられた祝福を味わいながら生きるようにされました。そのとき、すでに天から神様に敵対して追い出された墮落した天使サタンが、エバを訪ねてきて誘惑しました。もしサタンが目に見えるように現れて「エバ、私は神様に敵対して天から追い出されたサタンだから、お前は私の話を聞かなければならない!」と言ったとすれば、エバがだまされなかったでしょうが、サタンは野の獣の中で最も狡猾だった蛇の中に入って、アダムとエバを絶妙に誘惑しました。先にエバが神様を疑うように意図的な質問をしました。「神様が善悪の知識の木の実を食べてはならないと言われたのか」と尋ねないで、「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」と尋ねました。エバが疑って神様に敵対するように投げた誘導する質問です。この策略にだまされたエバが答えて「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけいからだ』と仰せになりました。」と話しました。神様は「それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」とおっしゃいましたが、エバの心に疑いが芽生えはじめていたのです。エバの心が揺れていることを感づいたサタンは、直ちに「あなたがたは決して死にません。あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知ることになることを神は知っているのです。」と話しました。聖書は、その話を聞いたエバが見ると「その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。」と話しています。サタンにだまされたエバは、肉的な情欲と目の情欲で不順従になって神様を離れるようになりました。神様を離れた瞬間、人間はサタンに捕われて、死に対する恐れと、理由が分からない不幸が訪ねてくるようになりました。それで、占い師を訪ねて行ったり、お祓いしたり、将来を尋ねて、引っ越しする時も日と方角を見なければならなくて、結婚する時も相性を見てもらったりして、思いどおりにすることもできません。動物の像に祈ったり、ステッカーやお札をつけて幸いを祈ったりもします。これがまさに神様を知らないようにさせ、人間を滅ぼすサタンの策略です。はたして、サタンという霊的の暗やみ勢力に勝つ道は何でしょうか。

「罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。神の子が現われたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。」(ヨハネの手紙第一 3:8)「幾日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り返ってその霊に、『イエス・キリストの御名によって命じる。この女から出て行け』と言った。すると即座に、霊は出て行った。」(使徒の働き 16:18)

### 神様の子どもになる

#### 受け入れの祈り

愛の父なる神様。

私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。

しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してください。キリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。

イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

### 神様の子どもの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかさされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

イラスト\_シン・ジョングン



## まことの出会いのために

楽しい旅行で出会う人は、だれでも韓国的な性格で見るとき、懐かしい家族のようだ。人が生きるといことが似たりよったりなので、出会うようになれば、共同の関心を分かち合うことができる。ある女子学生がバスに乗るようになったが、すでに席にいたおばさんと仲良く静かに話を交わした。他の人が見れば、あたかも母娘のようだった。ある程度の時間が過ぎて、おばさんは手提げ鞆から飲み物を二つ取り出して、一つは自分が、もう一つは女子学生に渡して、その場で互いにおいしく飲んだ。自動車に乗れば、眠りを誘うのだが、その女の子もうとうと寝てしまった。しかし、それでその女子学生の未来と夢は崩れたのだった。彼女が目覚めたところはどこかも分からない、とても薄暗い地下室で、睡眠薬を飲み物に入れて飲ませたおばさんはどこかに消えて、陰悪な人々が彼女を困らせて人身売買されてしまったのだった。楽しくなければならぬ旅行が、人を誤って選んだので、苦しみの旅行になったのだ。私たちが生きる日の間、数えきれないほど多くの出会いがあって、別れもある。人は自分が持っている価値とレベルによって出会いを成し遂げるようになって、結局、その値を分ける。やむを得ず、苦しみの出会いになったかわいそうな女子学生も、言いにくいことだが、彼女自身を保護できる価値を十分に維持しない霊的状态が伺える。それでも、悪い人間の姿が恐ろしいだけだ。それで、このごろは、危機管理教育をあちこちで行うので、それによって人間関係は、より一層、散漫になり、世の中が危険に見えるようになる。しかし、歴史を通していても、良い出会いを成し遂げていった意味あることが、たくさんある。泣き虫の王女が会うようになってバカなオンダル将軍に変化させたピョンガン皇女の話は、

敵どうして会った夫婦でも夫を成功させる妻の価値を見せる。朝鮮時代の最高の富豪イム・サンオクは、父を通して、商売とは利益を残すより人を残すことという教えを受けて、結局、彼は中国貿易当時に会うようになったチャン・ミリオンを恐ろしい遊女生活から助け、それによって彼女からより大きい恩返しをしてもらうようになったので、出会いはこのように重要な結果を作り出す。

夫の死後、不良少年として育てていく息子を育てていたひとりの女性の切実さは、職場と教会、家を行き来しながらも、出会いの祝福という信仰を捨てなかった。子どもの周辺の危機がより一層激しくなるほど、彼女の祈りの熱はあつくなって、彼女が会った神様の完全さに彼女はすべてを賭けた。待つことは退屈で苦しさが胸を押したが、信仰の終わりはあった。チャン・チヨン勸士は、子どもとの出会いと、味わう神様との出会いを通して、まことの出会いとは、まさにこういうものだという解答を得て、結局、時代的伝道者を立てるようになった。人間の苦しみは、自ら作らなくても迫ってくるが、解決される道がキリストにあるので、その方に会いさえすれば、すべての問題は直ちに解決される。ただ、生活で起きる現実の困難を、その出会いを通して受けた祈りの鍵を通して解決していけば良いのだ。人に会う幸せも重要だが、キリストに会うまことの出会いは、何よりも大切だ。そのような出会いのための今日が、まさに幸せのためのその日だ。

チョン・ヒョングク（福音コラムニスト）

\*相談したい方はこちらまでどうぞ